

補助29号線、放射2号線、補助28号線 計画

実は 防災に役立たず、税金の無駄遣い!

理由①

延焼を遮断すると言うが・・・

いざ大地震が起これば、品川では40ヶ所から出火すると言われています。そうならば、道路以外はみな燃えてしまうことになります。何より ・火を出さない ・初期消火体制の拡充こそ急ぐべきです。



理由②

避難道路と言うが・・・

災害時は、遠くの避難所ではなく、近くの広場や公園に一時避難するのが現実的です。ところがこれらの道路計画は、避難場所である「防災広場」や公園、大学キャンパスなどを幾つもつぶしてしまう計画です。道路でなく、防災広場や公園の整備こそ急ぐべきです。

理由③

消防車が通れないと言うが・・・

災害時には、大きな道路は大渋滞を起し車は通れなくなります。消防車を通すのに幅20mもの巨大道路は必要ありません。地域住民と相談して生活道路を整備し、消火設備の設置などを早急に行うべきです。



3・11 23:59 東大本郷キャンパス付近の車道のようす

理由④

商店街を壊し、地域の絆を壊します

補助29号線は、全国にも有名な「戸越銀座商店街」を分断します。戸越公園駅周辺の商店街も、片側は削られてしまい、商店街が壊されてしまいます。また、29号線だけでも550棟の建物（都の説明）が立ち退きを迫られ、商店会や住民から「道路計画」に反対する声が広がっています。「街あつての防災」。地域の絆こそ「防災」の大きな力です。



防災というなら、住宅耐震化、初期消火体制の支援にこそ本腰を入れるべきです。

- ◆住宅の耐震化支援（現在は1/2、150万円上限）の大幅拡充
- ◆家具転倒防止器具設置支援の拡充と普及
- ◆地域の初期消火体制の充実（ミニポンプ、街頭消火器、防火水槽等の配備）
- ◆消防車と消防員の増員
- ◆高齢者や障害者など災害要援護者を含む避難所体制の充実
- ◆水道・下水道管の耐震化
- ◆感震ブレーカの普及（揺れを感知してブレーカーを自動的に落とす）

補助29号線にかける600億円の7割、420億円で、区内の旧耐震の木造住宅1万4000棟の耐震診断と補強工事をすべて自己負担なく実現できます!

住民の暮らしと安全・環境を守る会

・世話人代表 原田泰雄 電話 3784-2560